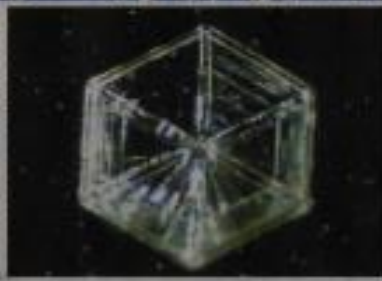


# 雪の結晶 \* どんな形

## 小学生ら参加 大野で観察教室

小学生向けの科学教室を手がけているNPO法人「ふくい科学学園」が1日、雪の結晶を作って観察する科学教室を、大野市朝日の和泉地域福祉センターで開いた。地元の小中学生9人が計2人が集まり、結晶を興味深そうにのぞき込んだ。

降ってきた自然雪の結晶。単に人工雪を作る装置を観察する予定だったが、使ったことになった。この日は快晴。香川喜一郎 教室ではまず、センター理事長(例)らが開発した雪の周りに積もった雪と食塩



●観察した人工雪の結晶。いずれも香川喜一郎さん提供



雪の結晶を観察する小学生—大野市朝日

## 六角形や桜「見たことない」

を混ぜて冷却剤を作った。香川さんによると、シャーベット状に砕いた水と食塩を7対3で混ぜるとマイナスイオンが安定した冷却剤ができる。次に、この冷却剤を入れた透明な容器の中へ、紙、プラスチック、ビニールテープと3種類の紙を敷くと、加えた水蒸気がマイナス15、20度に冷やされて、一つひとつ形の違う雪の結晶が現れた。

顕微鏡でのぞいた福井市清水北小5年の松村さくらさん(10)は「六角形だった桜の花形だったり、とてもきれい。こんなの見たことない」と話した。

また、冷却剤をカップラーメンの容器に入れ、下側をアルミホイルで覆った色紙をその上に置けば、そこに降った雪は溶けないという。香川さんは「結晶はルンベでも見える。家に帰ってからぜひ自分たちでやってほしい」と呼びかけた。

大野市和泉小3年の嶋田英嵩君(7)は「こんなに簡単にできるなんてびっくりした。学校でみんなに話したい」と話した。今回の教室は、都市部と山間部の子どもの交流を深めようと企画され、昼食には近くで採れたインシシンのシシ汁が振る舞われた。(高橋裕史)